

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用				
	性・年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置				
1	男 60代	肝細胞癌 (C型肝炎, 肝 硬変症, 高血 圧症)	120mg 1日間	間質性肺炎				
				肝細胞癌に対して本剤投与2年5ヵ月前, 2年3ヵ月前, 1年3ヵ月前, 10ヵ月前, 5ヵ前にシスプラチンを用いた肝動脈塞栓術(ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステルとのemulsion, ゼラチン塞栓)実施。最後の術後に蕁麻疹の出現が見られた。				
				投与開始日	本剤によるリピオドリゼーション実施。蕁麻疹の発症はなかった。術後39.5の発熱あり, ロキソプロフェンナトリウム水和物処方。			
				終了1日後	39.3まで発熱。			
				終了2日後	38.9まで発熱。			
				終了3日後	朝38.1あり, ロキソプロフェンナトリウム水和物内服。昼頃から呼吸苦出現。夜38.9の発熱, このとき呼吸苦と咳嗽がみられ, SatO ₂ (酸素飽和度)77%まで低下したため経鼻で酸素3L投与。呼吸苦は消失, SatO ₂ 93%まで上昇した。(間質性肺炎発現)			
				終了4日後	聴診上, 右肺中部にcoarse crackle聴取。CTで両側上葉に汎小葉性のすりガラス状陰影を認めた。心電図, 心エコー上異常所見がなかったことから, 間質性肺炎と判断, ステロイドパルス(メチルプレドニゾロン1000mg, 3日間), 抗生剤(シプロフロキサシン300mg×2回, 4日間), ファモチジン内服開始。			
				終了5日後	発熱なし。SatO ₂ 96-99%で推移, 血痰が少量見られた。胸部単純像で上肺野の陰影消失。			
				終了6日後	ステロイドパルス3日目, 呼吸状態改善傾向。			
				終了7日後	ステロイドをプレドニゾロン30mg経口に切り替え, 酸素投与終了。トイレ歩行でも息切れは見られなかった。胸部単純像で陰影改善。			
				終了8日後	呼吸器症状はほぼ消失したが, 腹満出現。			
				終了9日後	腹満に対してフロセミド40mg, カンレノ酸カリウム100mgを静注。			
				終了10日後	排尿で腹満軽快。			
				終了11日後	フロセミド40mg, スピロラクトン25mg経口投与へ切り替え, プレドニゾロン20mgに減量。			
終了13日後	胸部単純像ですりガラス陰影, 小葉間隔壁の肥厚・両側胸水はいずれも消失。プレドニゾロン10mgに減量し, 退院。(間質性肺炎軽快)							
臨床検査値								
			終了1日後	終了4日後	終了5日後	終了6日後	終了9日後	終了13日後
			-	-	-	307	-	-
			0.85	2.64	3.51	-	0.39	<0.30
			247	197	189	-	234	217
併用薬: イソロイシン・ロイシン・バリン, ウルソデオキシコール酸, エチゾラム, グリチルリチン・DL-メチオニン配合剤, アムロジピンベシル酸塩, レバミピド, ロキソプロフェンナトリウム水和物								

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用			
	性・年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置			
2	男 70代	肝細胞癌 (慢性閉塞性 肺疾患, 高血 圧, 高脂血症, 直腸炎)	100mg 1日間	急性腎不全			
				以前にアルコール性肝障害を指摘されていた。 泌尿器科に前立腺癌, 膀胱癌治療後で通院中, 本剤投与約1ヵ月前に肝機能障害悪化を認めたため, 消化器科に初診。 外来検査で肝硬変に相当する所見とCT上多発性肝細胞癌を認めた。			
				投与開始日	血管造影施行。肝右葉後区域に少なくとも2ヵ所の腫瘍濃染を認めたため, 右後区域枝に本剤動注。		
				終了1日後	術後BUN/Crの上昇が続き, 尿量減少(200-500mL/日), 浮腫の増悪を認めた。 補液(1000mL/日)を開始。人血清アルブミンも使用。		
				終了2日後	急性腎不全発現。		
				終了8日後	体重増加傾向, 尿量低下, 食欲低下, 倦怠感増悪。		
				終了13日後	人血清アルブミン50mL投与開始, 終了22日後まで。		
				終了15日後	フロセミド40mg/日投与開始, 終了23日後まで。		
				終了18日後	BUN/Cr更に上昇。尿量200mL未満/日へ低下。利尿剤を増量。		
				終了20日後	無尿となり血液透析を検討。		
				終了21日後	BUN/Cr更に上昇, 同時に肝不全悪化。血液透析実施するが, 血圧低下のため2時間45分で終了, 除水不可。呼吸苦出現。		
終了22日後	2回目の透析を実施したが, 透析中に呼吸不全となり人工呼吸器接続。その後血圧低下が続き, ドパミン塩酸塩, ドブタミン塩酸塩などを投与するも, 血圧上昇なし。						
終了23日後	早朝心停止。心肺蘇生法により2度心拍回復するも, 3回目の心停止後に死亡確認。 死因: 急性腎不全。剖検: なし。						
臨床検査値							
		投与22日前	終了1日後	終了4日後	終了7日後	終了18日後	終了21日後
BUN (mg/dL)		21.5	23.7	47.8	53.8	66.7	103.7
血清クレアチニン(mg/dL)		0.93	1.6	2.46	2.04	3.23	6.01
併用薬: ウルソデオキシコール酸, サラソスルファピリジン, 術後回復液, ベザフィブラート, テルミサルタン, トコフェロールニコチン酸エステル, イソロイシン・ロイシン・パリン							